

学生が取り組む持続可能な国際協力

認定 NPO 法人 Future Code 学生部 BYCS / 吉井 妃向、角田 美春 (英米学科・学生)



はじめに

私たち BYCS (バイクス) は、認定 NPO 法人 Future Code (フューチャーコード) のもと、大学生が主体となって国際協力を目指す学生団体です。現在は主に「ハンドクリームの販売を通して西アフリカに位置する国、ブルキナファソへの持続可能な支援」に取り組んでいます。私たちの親団体である Future Code は世界の災害・貧困地域で医療支援活動を行っている NPO 法人です。2011 年に設立され、ハイチでの病院再建プロジェクトのほか、バングラデシュ、ブルキナファソで活動しています。

BYCS の活動

私たち BYCS は「ブルキナファソ産のシアバターを使用したハンドクリーム販売によるソーシャルビジネス」で支援の一部を担っています。普段は対面とオンラインを活用し、楽しく活動するのはもちろん、個々人のペースで活動できるようにしています (写真1)。



写真1:メンバーが hadanishea を販売している様子 (BYCS メンバー撮影)

BYCS という名前はアルファベットの頭文字から。B: Bridge, Y: Youth, C: Challenge, S: Smile で「支援地との架け橋となり 若者らしくがむしゃらに 挑戦し続け 人々に笑顔を届ける」を意味し、私たちの活動理念ともなっています。

BYCS が手掛ける“hadanishea ハンドクリーム”

BYCS が販売するハンドクリーム hadanishea (ハダニシア) は、持続可能なサイクルを作り出しています。最貧国の 1 つブルキナファソでは、シアの実を摘む作業は伝統的に女性が中心の仕事であるため、シアバターを用いた事業を行うことで現地の雇用と現金収入を増やすことができます。そして現地で抽出されたシアバターを日本に輸入し、ハンドクリーム製造、販売に

繋げ、売上を現地の医療・公衆衛生等に還元しています。身近にも感じられるハンドクリームが継続的な国際協力を繋がっているのです (下図)。

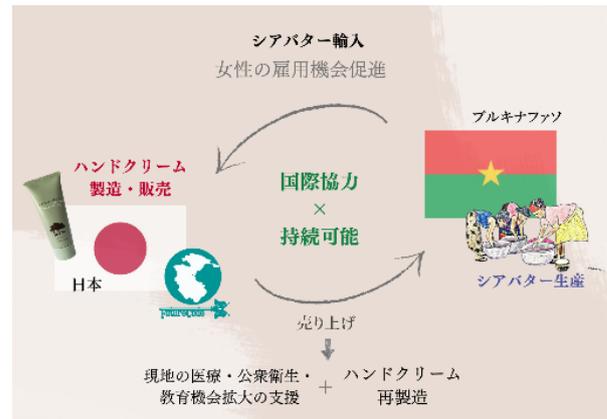


図:持続可能なサイクルの仕組み

hadanishea は 2019 年から販売を開始し、同年 11 月には「神戸セレクション 2020」を取得、2023 年 9 月には累計売り上げ本数 6500 本を突破するなど多くの反響をいただいています。未精製シアバターを使用しているため、高保湿ながらべたつかない使い心地です。

BYCS と SDGs の関わり①

私たち BYCS が関わる hadanishea ハンドクリーム事業は、SDGs の達成にも大きく貢献しています。私たちの活動は、SDGs の 1 番・2 番・3 番・6 番に関わっており、現地の支援として還元されています。



写真 2:現地にて食糧の支援を行った様子 (Future Code 撮影) まずは SDGs の 1 番「貧困をなくそう」と 2 番「飢餓をゼロに」です。

ブルキナファソの国境周辺ではテロの危険性が残っており、12人に1人が国内避難民となっています。そこで約80人の国内避難民を現地のスタッフとして迎え、大豆やトウモロコシを栽培する取り組みをはじめました。この活動は雇用の促進になることに加え、大豆やトウモロコシは現地の主食であるため、テロや紛争の影響で肥料や小麦が手に入りにくく、6.25人に1人が食糧難に陥っている状況下で貧困・飢餓の解決への1つの手段となっています。また、2023年8月には、地域の国内避難民や住人2000人を対象として日本から穀類10トンの支援を地域政府と協力して行いました(写真2)。

BYCSとSDGsの関わり②

次に私たちは、現地での医療支援活動で3番の「すべての人に健康と福祉を」を目指しています。(写真3)

ブルキナファソで行っている医療支援活動の1つが蚊帳の配布です。ブルキナファソでは蚊を媒介して感染する致死率の高い感染症「マラリア」が毎年流行しており、多くの子どもたちが命を落としています。マラリアは蚊帳や薬での予防が可能ですが、その知識や物資が十分に普及していないことが原因と考えられます。現地ではスタッフが定期的に各家庭を訪問し、蚊帳の有無や正しい使い方を確認、蚊帳が足りない場合は配布を行います。日本発のマラリアワクチン開発にも協力しました。



写真3: 現地にて蚊帳の設置を行う様子 (Future Code 撮影)

トイレや上水設備が普及していない地域では6番の「安全な水とトイレを世界中に」が課題です。ブルキナファソではトイレを使用する文化がなく、衛生的なトイレの普及が遅れています。同時に上水設備がなく井戸水を使用している地域では、安全な水へのアクセスが困難で、下痢になり脱水症状で命を落とす子どもも少なくありません。私たちはトイレの設置を急ぐとともに、手洗いやトイレの使い方などの指導を行う衛生改善啓発活動を行っています(写真4)。

BYCSメンバーの現在の活動状況

これらのような現地の支援を継続させるためにも、BYCSはメンバー皆で世界に目を向け、知識を深めながら、現地の「今」を多くの方に知っていただけるように活動に日々尽力しています。

BYCSの中には、新歓などイベントの企画やメンバー対応を行う「人事・総務」、取引先にアプローチして販売計画を練る「営業」、SNSでの発信や雑誌等への活動掲載依頼を担当する「広報」、諸費用の管理や利益率の計算など経理を担う「財務」、以上4つの部署があり、組織的な活動をしています。

オンラインでは部署のミーティングやそれらを全体に共有する全体ミーティング、団体の代表やOB・OGを招いた講演会を行い、対面では実際にイベントでハンドクリームを販売したり、イベントに向けて販売の練習をする会を開いたりしています。



写真4: 井戸水をBYCSメンバーと一緒に汲み取る様子 (Future Code 撮影)

このように、BYCSのhadanisheaハンドクリームの売り上げはBYCSのメンバーの活動と共に、様々な形で現地の支援へとつながっています。私たちBYCSは、ハンドクリームを利用した新たな国際協力を形作っています。

おわりに

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。みなさんも、自らの購買行動から、「小さな国際協力」を始めてみませんか。私たちの活動は、BYCS公式インスタグラムやFacebookから確認できます。公式ホームページ・ネットショップも運営しておりますので、ぜひご覧ください。

主要な参照・参考文献/サイト

「ブルキナファソに緊急で食糧支援を！！」<https://future-code.seesaa.net/article/500378908.html>

「〈緊急事態 ブルキナファソの食料難〉」

https://future-code.seesaa.net/article/202206article_5.html

「〈西アフリカ ブルキナファソ マラリア対策活動〉」

https://future-code.seesaa.net/article/202009article_2.html

「〈ブルキナファソ活動報告 続報です！〉」

https://future-code.seesaa.net/article/201912article_3.html

「〈ブルキナファソ 衛生改善への啓発活動〉」

https://future-code.seesaa.net/article/202203article_3.html